

花の日 こどもの日礼拝

2017. 06. 09. (金)
つのぶえ保育園(石田)



イエス・キリストは誰よりも子どもを大切にされ、愛されました。そして、世の中の弱い立場の人、貧しい人、悲しみや悩みに 心を痛み 日々苦しんでいる人、病の中に在る人、物言えぬ小さな生命、また、周りからの意味のない無視や差別の中、疎まれ、虐げられ居場所さえ与えられない者達にこそ、誰よりも先に 手を差し伸べ 慈しみ、神様の永遠の愛を伝え、生きる希望と力を与えられました。このイエスさまの深い愛に満ちた生き方と御心を、後世に生きる一人ひとりが 決して忘れることなく 倣い、表し続けていこうと、1856年 アメリカのレナード牧師が、幼な子の心身の健やかな成長に祈りを込めて、6月の第2日曜日に特別礼拝を行いました。それから後 1870年には、マサチューセッツ州の教会において子ども達の 純粋な心や それぞれの個性の貴さと、花一輪一輪の美しさや 清らかさを重ねて、その生命と成長を祝福しようと『シャロンの薔薇の礼拝』が行なわれました。

この両日が同日であったことがきっかけとなり、やがて全世界のキリスト教会に『花の日・こどもの日礼拝』として拡がりました。(今年は、明後日の 6月12日(日)です。)

つのぶえでも、皆が 持ち寄った鮮やかで色とりどりのお花や、年長組がそれぞれに お店で選び買ってきた凛として美しいお花や、お庭や野原で 摘んで来た可憐なお花たちを ホールに飾りました。一輪一輪 咲いている素敵なお花たちを 真ん中に囲み、静かに見つめながら礼拝をしました。お花の 形も 色も 香りも みな違ってそれぞれに素晴らしく比べることなど出来ない天地創造をされた神様の御業を改めて想わされた気がしました。そして、お花の周りで 愛らしく微笑む子ども達一人ひとりも、神様の御心によって大切に愛されている貴い存在であり、お花も子どもも、そのひたむきで ささやかな生命の価値は、この世界に創られ生かされている被造物同士、互いに時を分かち合い 共に生き合う中で、最も愛され 貴ぶべき存在なのだと 感謝と喜びに溢れたひと時でした。

この日をお祝いし、ささやかですが園よりお花をお贈り致します。それぞれの御家庭に飾って頂ければ幸いです。そして 今も この空の下で ひそやかに人知れず咲いている小さな花たちの花びら1つ1つさえも、数えて愛して恵みを与えて下さる神様の平和と愛が、世界中すべての子ども達1人ひとりの上に注がれるようお祈り致します。

以下は、今朝の『花の日・こどもの日礼拝』で 皆に語った お話の内容メッセージです。子ども達は 主人公の男の子になりきって 夢中で聞き入っていました。そのキラキラ輝く瞳と 笑顔が とても印象的でした。

『イスラエルの小さな村にルカという5歳の元気な男の子がいました。ルカは神様が大好きでした。神様のことを考えると、どんな時も傍にいて下さる安心感がありました。やがてルカは両親から、神様のひとり子イエスさまのお話を聞き、いつか会いたいと思うようになりました。そんなある日、この村にイエスさまがいらっしゃることを知り、ルカは大喜びでお母さんに イエスさまに会いに行きたいこと、その時に何か贈り物をしたいことを 伝え色々悩んだ末、ルカ自身がお世話していた庭の 大好きなタンポポをプレゼントしようと決めました。いよいよ当日の朝、早起きしたルカは村の中心に在る公園に急ぎました。村中だけではなく隣町や他の所からも老若男女大勢の人々が集まって来ました。ルカはイエスさまに会いたい、お花を渡したいと前の方へ行こうとしましたが、背の高い大人達に遮られてしまいました。背伸びやジャンプを幾度も繰り返しましたが、小さなルカがどんなに頑張っても イエスさまの姿は全く見えませんでした。中に入ろうと大人に声をかけると 弾き飛ばされ怒られてルカはがっかりして泣きながら 地面に力なく座り込んでしまいました。ところが どうでしょう！驚いたことに大人の足と足の隙間から真ん中にあるイエスさまの白い洋服が見えたのです。ルカは元気を取り戻し「ここから行こう！」とプレゼントのお花を胸ポケットにそっと入れ、大人達の足のトンネルを潜り抜けとうとう真ん中へたどり着くと、優しい笑顔で天を仰ぎ、手を広げてお話をされていたイエスさまが、目の前に立っていました。思わずイエスさまの元へ駆け出した途端「こらっ！」と、いきなりお弟子さん達に怒鳴られ、怖い顔で睨まれて摘み出されそうになりシュンとした時でした。「ルカ おいで！お花を持ってきてくれたんだね。」という静かな声に顔を上げると、イエスさまがニコニコしながらルカに向かって両手を広げていました。自分の名前やお花のことを、すでに御存知なのも驚いたルカでしたが、イエスさまの温かな笑顔に思わず大喜びで駆け出していくと優しく抱き上げ、頭をなでて「ありがとう」と嬉しそうにお花を受け取ってくれました。それから集まっていたすべての子ども達を抱きあげ 祝福のお祈りをされた後、お弟子さん達と周りの大人達に向かって諭されました。『子ども達を私のところに来させなさい。神の国はこのような者たちのものです。子ども達を決して邪魔にしたり虐げたりしてはなりません。子ども達のような心にならなければ天の御国には入ることは出来ません。』この言葉を聞いていたルカは、イエスさまのことが今まで以上に大好きになりました。そして、その様子を遠くから見ていたルカの両親も 心から喜んで、神様に感謝のお祈りをささげました。』